Japaneseman In NY（ニューヨーク生活）

42nd Street in 1993

≪初めてのニューヨーク（後編）≫

（前号からの続き～）天気はあいにくどんよりとした曇り。時刻は午後早い時間だったと記憶している。まずはブロードウェイの方角、タイムズ・スクエアを目指して歩いた。

幸いマンハッタンは縦に Avenue、横に Street という形で地図上でも分かりやすく区画されていて、距離感は掴めないまでも迷う事はなさそうだった。だが、最初に通ることになった 42nd ストリートは「地球の歩き方」でもかなり危ない場所と記載されており、実際に異様な雰囲気が漂っていた。

通りの両側は一見賑やかそうだが、立ち並ぶ店をよく見るとわいせつなビデオの販売店やストリップ小屋と思わせる派手な電飾がチカチカしている店。インチキそうな時計が並んでいたり、怪しげな土産店が多く、閉鎖されている店もあり、通りのあちこちに怪しげな人が立っているのも目に入った。

また、ミニスカートと派手な服装をまとって通りに佇み、道行く男たちに微笑みかける女性の姿も何人か見かけた。ジロジロと見るわけにもいかず、足早に通り過ぎたが、観光客を拒絶するかの様に安全な場所ではなさそうなことは一目瞭然だった。今でこそこの辺りは観光スポットとして整備されたが、その後ニューヨークで生活することになった時でも、この界隈は他のエリアとは全く異なる空気を漂わせていた。今思うと、この独特で危険な雰囲気こそがニューヨークらしさだったような気がする…。

テレビや雑誌で見たままのタイムズ・スクエアに出た時は何とも言えない興奮を覚えたが、日が暮れる前に「地球の歩き方」で目星を付けていた安いホテルの部屋を確保しなければならなかったため、立ち止まらずにホテルを目指した。幸い無事にチェックインすることが出来て一安心したが、直ぐにバスディーポに戻ってロッカーに預けていた荷物を運んだ。初日の夜は警戒心もあってか、タイムズ・スクエア近辺を歩いて、ファーストフードで簡単な夕食を済ませただけでホテルに戻って明日に備えることにした。テレビを付けながら「地球の歩き方」を眺めて残りの滞在 1 日半の予定を練った。

翌日の朝から訪れたはジョン・レノンが住んでいたダコタハウス、セントラル・パーク、5 番街、エンパイア・ステート・ビル、世界貿易センタービル、ヤンキー・スタジアム、アポロ・シアター、CBGB、そして、スタッテン・アイランド行きのフェリーに乗って少し遠目から自由の女神を眺めた。ジャズ・クラブはヴィレッジ・ヴァンガードとブルーノートまで足を運んで場所は確認したものの、所持金も既に少なく、この後の旅のこともあったため、優雅にライヴを見る余裕などなかった。

2 日半の NY 滞在期間中、幸い危ない目に合わなかったが、最終日ニューヨークを離れるバスの出発時間まで数時間あったため、バスディーポから程近い 42nd Street 沿いにあった古い映画館で、当時公開されて話題になっていた『ターミネーター 2』を見て時間を潰すことにした。後から思うと、一番危なかったのはこの映画館だったかもしれない。チケットを買って中に入ると、既に映画は始まっていて、座席に着いた時は全裸のシュワルツネッガーがバーで革ジャンを奪って外に出てくるシーンの辺り、ジョージ・サラグッド＆ザ・デストロイヤーズの「バッド・トゥ・ザ・ボーン」が大音量で流れていた。だが、そのシーン以上に衝撃だったのは、座席のシートがボロボロだったこと。床には飲み物のコップやポップコーン、ゴミが散乱していた。

ニューヨークに住んでから聞いた話だがあの映画館はかなり危険で、特にトイレでは犯罪が頻繁に起こっていたとのこと。その時はそのトイレでも用を足したが、確かに異様な雰囲気は漂っていた。何とか生還できたことはラッキーだったのかもしれない。館内では自分のような日本人はおろか、アジア人の姿など 1 人も見かけなかった。『ターミネーター 2』を見ると今でもあの映画館を思い出す。結局最後まで映画を観終わることなく、バッファロー行きのグレイハウンド・バスに乗り込んだ。

「住めば都」という言葉があるが、ニューヨークの第一印象はあまり良くなかった。滞在期間中、一度も晴れなかったせいもあるかも知れないが、何となく暗いイメージで、正直、住むような場所ではないかなと思ってしまった。勿論、その時は数年後に住むことになり、自分のその後の人生に大きく関わることになる場所になるなんて全く想像出来なかった。でも、人生とはそんなもの。人生は何が起こるか分からないから面白いのかも知れない。それを実感したのもこのニューヨークだった。